

例えば、国特別史跡・閑谷学校(備前市)が知られているが、備前焼に詳しい上西節雄・倉敷市立美術館長は「ほかに聞いたことがない。非常に珍しい」と話している。
(三木良一)

赤磐市奥吉原の山頂にある熊山神社の扉に、備前焼の瓦が使われ、話題となっている。備前焼の瓦と

赤磐・熊山神社



備前焼の瓦が使われた熊山神社の扉

100枚の扉上ぐるり

珍しい備前焼瓦

半円筒形の丸瓦で、長さ約三十枚、幅約二十枚、高さ八枚。わらを巻いて模様を付ける伝統的な「緋だすき」で焼き上げた。神社を囲む全長約百枚の扉(高さ約一・二メートル)の上に約三百枚を並べている。昨年末に完成した。

熊山神社は、備前市と赤磐市の境の熊山(五〇九メートル)の山頂に位置。山中には鎌倉時代の備前焼の窯跡があり、境内には明治期に制作された備前焼のこま犬も置かれてい

伝統的緋だすき

氏子女性が寄進

る。扉は、岡山市在住の氏子女性(六三)が寄進したもので、その際「熊山神社にふさわしい瓦を」と思い立ち、知人を介して備前焼作家平川忠氏(備前市)に依頼。平川氏の弟子が制作した。同神社の三原千幸宮司は「熊山は、備前焼とのゆかりが非常に深い場所。立派で趣のある瓦をいただき、感謝している」と話してい